

# いしかり「防火」通信

## 夏に多い火災の特徴と対策

気温も高くなり、まさに今が夏本番。実は、暑い夏の日でも火災は起こります。そこで、今月号では夏に多い火災の特徴を具体的に、どんなところに危険があつて、どんな対策をすれば火災を防げるのかをご紹介します。

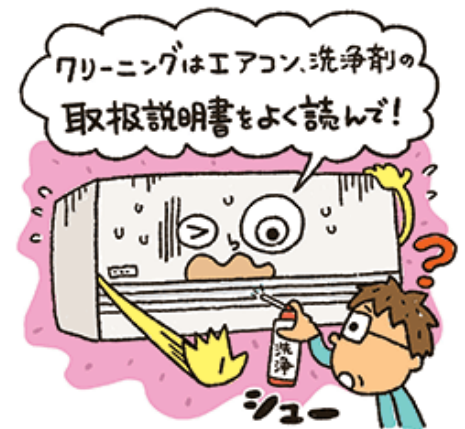
**ココが危険！**

### 夏に必須の扇風機やエアコン

扇風機やエアコンは夏に必須の道具ですが、ここにも危険は潜んでいます。

扇風機の火災で多いのは、**経年劣化による出火**です。外見上は異常が無いように見えても首振り機能などにより、内部で断線等の絶縁異常や接触不良が発生し出火するケースが見られます。

エアコンの火災では、市販の洗浄スプレーを使用して内部洗浄をした結果、**電気基盤などに液体が触れて出火**するケースが見られます。



#### 扇風機の火災対策ポイント：使用年数に注意！

扇風機は構造が単純で壊れにくい電化製品のため、長年に渡り使用しがちです。火災になった扇風機の中には「30年以上使っている…」というものもあります。使い始めの時期には特に注意し、**「焦げ臭いにおいがする」**や、**「羽根の回り方が不規則だ」**などという場合はすぐに使用を中止してください。

#### エアコンの火災対策ポイント：内部洗浄に注意！

洗浄スプレー等の液体を使った内部洗浄を実施する前に取扱説明書を読みましょう。**各メーカーは「お客様自身で室内機内部の洗浄をしないこと」と警告しています。**多少お金がかかってしまいますが、メーカーや取扱店舗に問い合わせ、**専門業者に依頼する**と安心して使用できます。

**ココが危険！**

## お供えに使う線香やろうそく

お盆は親戚が集まり、ご先祖様を供養するご家庭も多いのではないかと思います。そこで注意していただきたいのが線香とろうそくです。火種としては小さいですが、周りにはご供物や座布団などの火が点くと燃え広がってしまうものがたくさんあります。

ろうそくや線香の火災で多いのは、倒れてしまい近くにあるものに火が点くケースや、ろうそくの火を点けたままその場を離れてしまい出火するケースが見られます。

また、蚊取り線香も危険です。炎が無くても700度から800度ほどの温度で燃焼しています。



### ろうそくによる火災対策ポイント：**火を消す！ & 目を離さない！**

その場を離れる場合は必ず火を消しましょう！また、扇風機等の風が吹くような環境で使用していると、炎が風にあおられて近くのご供物などに燃え移ってしまう危険があります。

### 線香による火災対策ポイント：**長時間の外出や就寝時は火を消す！**

線香は性質上、家の中であればその場を離れても問題はありませんが、ペットボトルなどに水を汲んで近くに置いておくと、いざというときに使えます。また、長時間の外出や就寝など注意を払うことができない場合は火を消しましょう！



どんな火災にも特徴と対策方法があります。多くの火災に共通しているのは、**ちょっとした不注意やミスで火災は発生してしまう**ということです。だからこそ、**ちょっとした習慣や、少しの注意で火災は防げます**。「まさか火災になんてなるはずがない…」と誰しもが思うのですが、火災にならない保障などどこにもありません。今一度、自分の習慣や火災に対する意識を見直し、防火意識を高めましょう！

発行：石狩消防署予防課

〒061-3211 石狩市花川北1条1丁目2番地3

Tel 0133-74-7165

Fax 0133-74-9814



ホームページ



ツイッター